

同窓会会報

第11号

平成21年10月15日

発行

鹿児島大学教育学部
同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
電話099-285-7711



第12回 同窓会総会 学年代表を5名以上に！

平成21年度第12回同窓会役員総会が8月1日午後1時から、51人の役員が集まって教育学部大会議室で開かれた。開会に当たって、池之迫静男会長が昨年の同窓会設立10周年記念大会は、活動に大きな節目を刻んだと感謝を述べた。大会は、学部で音楽を専修する学生の演奏に始まり、式典では、同窓会設立に尽力された島田俊秀元教育学部長と名誉教授の木佐貫哲前副会長に会長が感謝状を贈呈したことを報告。同窓会初の懇親会が、実に親しみあふれるものだったことを伝えた。

さらに、記念事業として設けた「国際交流基金」と「人材活用(派遣)事業」の拡充を要望。本年度から、同窓会実のために支部世話役人を開くことと、学年代表を各学年とも5人以上選んで、組織を拡充することを要望した。坂尾隆・中山右尚顧問、武隈晃副学部長のあいさつを受け、上村睦郎理事を議長に協議に入り、佐賀義彦幹事が平成20年度の会務報告を行い、竹之内則好幹事が決算報告。平岡順義監事が山本高師監事と支払決議書、帳簿、通帳等を監査した結果、報告書の通り相違ないことを報告した。

年1回発行の本誌も第11回となり、昨年11月に同窓会設立10周年を記念して、会員の皆さまの支援、ご協力により、盛大な大会が開催され、これまでの同窓会活動の歩みに、一つの区切りができました。



縁によって結ばれ

同窓会会長 池之迫 静男

「母校の発展と教育の進展を図る」にふさわしい2つの事業を起こしました。一つは、「人材活用(派遣)事業」です。同窓生の皆さまの主体的な着想を基に実行するもので、それぞれの地域社会の教育振興活動です。なお、必要な経費は計上してありますので、どなたでもご協力ください。

二つ目は、教育学部発展のための「国際交流基金」の設置です。日本の社会が大きく変動する今日、同窓会も社会的使命をささやかでも果たし得る会でありたいと思います。ところで先日、奈良を旅して古刹を訪ね「変わるものと思わぬもの」についての思

いを深くしました。その折に、図らずも雪舟派の水墨画の大家と話をする機会がありました。大家は、「ロンドン展」を開催。イギリス王家に招かれて水墨画を紹介していただきました。水墨画について「縁」にまつわる話を、「筆」「墨」「紙」との出会いを強調されたので、ひとしお感慨深いものがありました。教育学部同窓会も、会員との不思議な縁によって結ばれた「一期一会」の縁であり、この「縁」こそが活動の推進力です。教育学部の発展を念じつつ、同窓生の皆さまにご支援をお願いいたします。

平成20年度一般会計決算 (単位:円)

区分	予算額	決算額	増減額	備考
前年度繰越	168,563	168,563	0	
会費	3,910,000	2,590,000	△1,320,000	新入生 2,340,000 卒業生 0 既卒者 250,000
預金利息		21,236	21,236	
合計	4,078,563	2,779,799	△1,298,764	

区分	予算額	決算額	増減額	備考
事務経費	410,000	436,431	26,431	賃金、通信費、文具等
会議費	740,000	300,134	△439,866	役員会、理事会、総会、同窓会連合会
事業費	1,010,000	829,255	△180,745	会報作成費および発送費、鹿児島島の教育を語る会経費、語る会報告書、大学祭
会計区分変更	500,000	500,000	0	国際交流基金
予備費	1,418,563	200,000	△1,218,563	
合計	4,078,563	2,265,820	△1,812,743	
次年度繰越		513,979		

- ◇平成21年度事業計画
- 4月1日 20年度会計監査
- 4月11日 同窓会役員会
- 4月11日 同窓会理事会・総会
- 4月20日 同窓会会報第11号発行準備
- 5月13日 同窓会会報第11号発行
- 5月24日 同窓会会報第11号発行
- 6月26日 支部世話役会
- 7月7日 大学祭学部企画事業への参画
- 8月1日 かごしまの教育を語る会開催
- 8月中旬 平成22年度新入生への同窓会入会案内
- 10月15日 昭和39年、46年卒業生への会費納入依頼

平成20年度特別会計決算 (単位:円)

区分	予算額	決算額	増減額	備考
前年度繰越	4,000,000	4,000,000	0	
会員からの寄付		100,000	100,000	
記念大会会費		294,000	294,000	
合計	4,000,000	4,394,000	394,000	

区分	予算額	決算額	増減額	備考
10周年記念大会実施経費	4,000,000	1,753,604	△2,246,396	※10周年記念大会実施経費補助
合計	4,000,000	1,753,820	△2,246,396	
次年度繰越額		2,640,396		

区分	予算額	決算額	増減額	備考
前年度繰越	11,000,000	11,000,000	0	
合計	11,000,000	11,000,000	0	

区分	予算額	決算額	増減額	備考
記念事業積立金	0	0	0	
合計	0	0	0	
次年度繰越額		11,000,000		

区分	予算額	決算額	増減額	備考
一般会計からの組み替え	500,000	500,000	0	
合計	500,000	500,000	0	

区分	予算額	決算額	増減額	備考
JICA 集団研修経費補助		120,043	120,043	
合計	0	120,043	120,043	
次年度繰越額		379,957		

平成21年度一般会計予算(単位:円)

1. 収入の部

区分	予算額	備考
前年度繰越	513,979	会費内訳
会費	4,680,000	21年度新入生 294名 20年度卒業生(未加入) 124名 既卒者(見込) 50名 計 468名
合計	5,193,979	468名×10,000円=4,680,000円

2. 支出の部

区分	予算額	備考
事務経費	370,000	通信費50千円、賃金230千円、文具等80千円、パソコンソフト10千円
会議費	370,000	理事会、総会経費等170千円、同窓会連合会関係費等200千円
事業費	1,850,000	会報作成費450千円、鹿児島県教育を語る会100千円、人材活用事業600千円、大学祭共催企画150千円、交通費等200千円、その他50千円、支部、学年、教科同窓会補助300千円
特別会計へ組み替え	500,000	
予備費	1,483,936	記念事業積立金1,000千円、国際交流基金120千円
合計	5,193,939	

(2) 特別会計

(1) 記念事業積立金

(収入の部)

区分	予算額
前年度繰越	11,000,000
H 21 積み立て分	1,000,000
合計	12,000,000

(支出の部)

区分	予算額
記念事業積立金	12,000,000
計	12,000,000

(2) 総会開催準備基金

(収入の部)

区分	予算額
前年度繰越	2,640,396
合計	2,640,396

(支出の部)

区分	予算額
総会開催準備基金	2,640,396
計	2,640,396

(3) 国際交流基金(予)

(収入の部)

区分	予算額
前年度繰越	379,957
新規積立	120,043
合計	500,000

(支出の部)

区分	予算額
国際交流基金	500,000
計	500,000

鹿児島大学教育学部 前身学校に関する史料について

教育学部准教授 日隈正守

今年には鹿児島大学開学60周年に当たります。このことを記念し、附属図書館一階に歴史展示室が設置されることになりました。

歴史展示室では、鹿児島大学および前身学校に関する史料・史料に関する写真パネル・解説文が展示される予定です。

今回は、教育学部前身学校に関する史料についてご紹介させていただきます。

「母校鹿児島県師範学校」・「附属小の百年」・「附幼百年の歩み」・「第二師範記 開校60周年記念誌」・「洗心会―鹿児島青年師範学校史―」等には、教育学部の前身学校の校舎および校歌・道徳歌と教育活動、教科書・卒業記念文集・卒業証書等の貴重な写真が掲載されています。

鹿児島県立図書館には「鹿児島師範学校備忘録」・「鹿児島師範学校規則等集」・「鹿児島師範学校卒業証書授与式次第及卒業生一覧」等があります。

教育学部附属小学校にも師範学校附属国民学校の工作・作文・修身の教科書等数冊が保存されています。

田上小学校には、大正昭和前期の教生配当命令簿、昭和前期師範学校の学生が教育実習中に宿泊した天心寮跡地は現田上小プール)の札、寮生の名簿や感想文集、同時期の教科書・授業細目と教育研究報告等が保存されています。

私たちは、以上の貴重な史料を十二分に活用し、後世に伝えていく責務があります。

私たちは、以上の貴重な史料を十二分に活用し、後世に伝えていく責務があります。

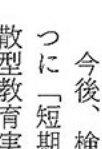
教育学部に着任し、三年目を迎えた。日々教員養成に携わる難しさややりがいを感じつつ、気が付けばこの間さまざまな場面を通じて「実践的」という言葉の意味を反すうしてきた。わたしの拙い教育経験を基に述べることをお許しいただければ、実践的な局面において必要となる資質能力は、①実践を支える理論および専門的知識・技能②解決予測に基づく構想・展開力③コミュニケーション力・協働性④課題解決への職責・情熱などであろうと考える。そしてこれらは、学習指導や生徒指導上の課題に対し、観察・実態把握・課題分析・企画構想・実践展開①・検討修正・実践展開②:検証分析・評価改善等の過程において、個別にはなく総合化された形で発揮される資質能力でもあるととらえている。

そして、三年次の教育実地研究(教育実習)では、昨年度から事前指導の講義を半年繰り上げて二年次後期の参加観察実習前に実施するようになった。私もコマ担当しているが、早い時期に教育実習への意識を準備させることは、他科目の履修においても実践的な局面と関連付けて理解しようとするなどの心理的な作用が働き、主体的な参加態度が形成されると思う。付け加えると、平成二十二年度入学生から四年次後期に

具体的実践的な資質能力が具体化された点と、個々の科目がどの資質能力の育成に関連しているかが可視化され、学生がそれらを基に自己の資質能力のバランスを客観的に把握できるようになる点である。以前、ある研究資料の中で「各講義から学んだものを内在化し、教員としての資質能力に高めていくのは、もっぱら学生の側に依存している」という学部教育への指摘を読んだことがあるが、本学部のこの取り組みに関しては、指導者側に引き寄せて、育成すべき資質能力と科目内容との関連を捉える機会と見ることができると考えている。

実践的な資質能力の育成を目指して

教育実践総合センター 准教授 大久保直志



今後、検討すべき課題の一つに「短期集中型から長期分散型教育実習への転換」がある。これは、理論と実践の往還的な学修を一〜四年次の長期的・段階的な体系に整え、実践的な資質能力を着実に高めようとする構想である。

短期研修で学んだもの

鹿児島大学学術交流協定校 米・西ジョージア大

教育学部同窓会国際交流基金



鹿児島大学および教育学部が行う国際交流活動を助成するために、平成20年、同窓会設立10周年を記念して、「国際交流基金」を設置しました。初年度は3人の学生が、米西ジョージア大学(大学間協定校)で研修(留学)。教育学部として初めて取り組みましたので、同窓会から研修の補助をしました。なお、研修の期間は平成21年2月から4月初旬まで。

授業スタイル・カリキュラムの違いを学ぶ

学校教員養成課程教育学専修3年

松元 千恵

2年生の春、やっと念願のアメリカでの研修に参加することができました。中学生のころ、ホームステイのプログラムでアメリカの西海岸に行った経験がありましたが、今回はアメリカの大学で実際に現地の学生と同じように講義を受け、学生寮でアメリカ人の学生にまじって生活するというもので、以前の経験とはまったくと言っていいほどに異なったものです。

わたしは、ひとり暮らしをしたことがありません。アメリカでの研修中の2カ月は寮生活。寮生活もわたしにとってはひとり暮らしと同じようなもので、初めてのひとり暮らしがアメリカなんて大丈夫なのかと、行く前は「何だか」や「はり行くのはやめようか」などと考えて悩みました。しかし、「不安なことはたくさんあるけれど、とりあえず自分をそのような新しい世界に放り込んでみよう」と思いました。

現地での生活を始めてから、主に教育に関する講義を受講しました。もちろん、授業はすべて英語。最初は、聞き取れたフレーズや板書をノートにメモすることしかできませんでした。そのノートを、チュートリアルという先生と一对一の授業で質問しながら見せ、説明

してもらったことで、だんだんと分かってきました。また、毎週水曜日には実習に参加し、日本とアメリカの授業スタイルの違いやカリキュラムの違いを学びました。アメリカの教育方法を観察して、アメリカの良い点だけでなく、日本の教育の良い点にも気付けたことが一番大きな収穫でした。

英語で話す自信がついた

学校教員養成課程教育学専修3年

岡留 晃平

この研修を支えてくださった鹿児島大学と西ジョージア大学の教授、同窓会の方々に心から感謝しています。ありがとうございました。

わたしは、鹿児島大学との学術交流協定校の一つであるアメリカの西ジョージア大学に約2カ月間、海外研修に行かせていただきました。滞り期間中は、大学内にある学生寮で生活し、大学の講義を受けたり、小中学校の教育施設を訪れたりしました。

これらの経験を通して、日本の生活や文化、教育などと、さまざまな点で比較することによって、多くのことを学ぶことができました。また、学生や教授などと英語でコミュニケーションをとることができました。自分の

英語力不足にショックを受け

生涯教育総合課程地域生涯教育コース 地域社会教育専修3年

松崎 亮祐

わたしは今回、鹿児島大学と協定校である西ジョージア大学において、初の試みである約2カ月間の短期留学に参加しました。

わたしは、中学生のころから英語に興味があり、大学に入り、機会があれば留学して自分の英語力を磨きたいと考

えていました。そこで今回の留学の話に興味を持ち、行かせてもらうことになりました。実際に参加して、本当によかったと思います。自分の英語力の不足にショックを受けましたが、日本でさらに英語の勉強に打ち込むモチベ

ションにつながりました。また、文化の違いや独特の表現、発音など、現地に行かなければ分からなかったことをたくさん学ぶことができました。この体験を無駄にしないために、また、西ジョージアに留学させてくださった方々の期待を裏切らないように、これからさらに英語の勉強を頑張りたいと思います。



第6回 教育学部美術科同窓会展

鹿児島大学教育学部美術科 同窓会長 林賢一郎



「随分新鮮な感じの展覧会ですね。ご高齢の方から最近卒業された方まで、幅広い年齢層の作品は、それぞれの時代の反映でしょうか。変化に富み、見応えがありました。また、絵画や彫刻はもとより、あらゆるジャンルの作品を一堂に展覧できたことは感動的でした。次第に涙が出てきました」と初老のご婦人の感想です。

やっと開催にこぎつけた展覧会で「涙が出るほど感動的だった」との励ましを受け、感激し新たな決意をすることになった。

同窓会展は、平成6年に第1回展を開催している。それまでに同窓会名簿の作成、組織の整備、会費の徴収などを基に、事業としておよそ3年に1回の展覧会の開催や会報の発行などを行ってきた。

順調に年を重ねてきた美術科同窓会も次第に運営が困難になってきた。その最大の要因は、同窓会名簿の修正・追録が徹底できなくなったことである。名簿が不十分では、会費の徴収もままならない。会費がなければ事業にも影響していく悪循環である。

名簿の不徹底さは、一つは個人情報保護の問題である。いま一つ、かつては美術科を卒業すれば、ほとんどの卒業生が本県の教職に就いた時代であり、縦・横の人間関係が保たれていたが、現在は、本県の美術教師として採用されるのはごくまれで、教職としての同窓会は機能しなくなっている。そこで、今回の第6回展

より、新たな歩み始めることとした。名簿作成を始め、それに伴う年会費の徴収の打ち切りである。しかし、われわれの深い

卒業生の制作活動への情熱と教育・文化への深い思いが、出品数73人、出品点数123点のこれまでの最高の実績として実を結んだ。出品者のうち、7割が60歳以上であるなど、若い世代への働き掛けに課題も見えたが、鹿児島大学教育学部卒業であるという誇りと絆を第7回展につなげた。

人材活用(派遣)事業

初心者のための剣道指導

昭和43年卒 新穂 豊秋

5月2、3日の2日間、鹿児島市中体連剣道専門部が、県下の中学校剣道部に呼び掛けて錬成会を計画した。

その中で、まだ試合のできない初心者を対象に礼儀作法や基本動作の指導をしてほしい旨、同専門部長から依頼があった。

剣道修練の目的は、単に試合に勝つための技術向上にあらず、剣道を通じた長い人生における人づくりにある。将来、社会発展に寄与せん

半程度、剣道修練の目的、歴

史的変遷に基づく、試合・審判規則や礼法の根拠、修練上の心構えなどについて、実技を含めて指導を行った。

各学校とも、平常の練習時間内には、なかなかこのような内容の指導に入る余裕がない



く、試合に勝つための技術指導に終わっているのが実情なだけに、この指導は引率の教師、外部指導者ならびに保護者にも好評だった。

三世会

初心回帰

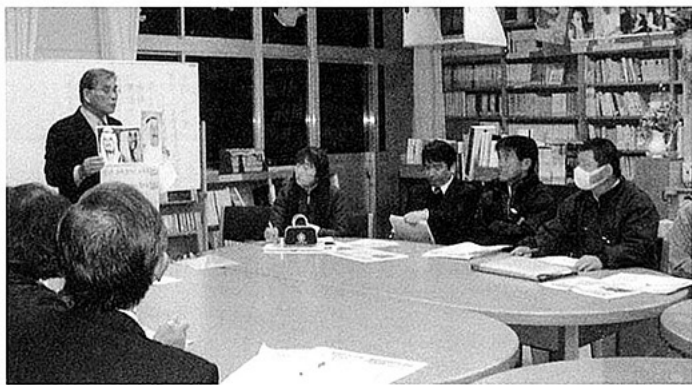
会長 原田浩幸
昭和34年卒

「長生の舞」を踊ってもらった。「三世会」は設立当時、10年で見直すことになってきたことが判明した。そこで、平成21年の第13回三世会は、卒業50年・修了52年記念の会とする

尾の「奥段」に「初心忘るべからず」を(1)是非(ぜひ)の初心忘るべからず(2)時々の初心忘るべからず(3)老後の初心忘るべからず。と書いている。教職に就いた時の初心、この会を結成した心として忘れずに、己の未熟さを知って、新鮮で謙虚な心で今後も同窓の仲間とともに精進を重ねていきたいと思います。

日置地区の教育講演会

昭和31年卒 石神 正明



期、内容、講師等を検討し、今回は標記の会で実施する案のもとに、主催者と打ち合わせを重ねてきました。

室之園氏は以前、海外の日本人学校にも勤務されており、また長期研修で「国際理解教育」の研究もなさっています。

当日の講演では、外国での体験を踏まえての話の中で、外国にいる日本人の子どもたちと旅をしたとき、子どもたちがその国の国旗に対して敬意を示した態度が住民との信頼関係を築いたことや、子どもの成長に合わせて教えるべきことをきちんと教え、積み重ねていくことの大切さなど、日本人としての自覚を持たせる必要性を強調され、教育の核心をついた心に残る講演となりました。

日置支部からは、講師紹介を兼ねてのあいさつの中で、同窓会のこの取り組みの趣旨を説明するとともに、今後の教育の充実、発展を期することとした。

その結果、標記の会合で総括として講演を行うことになり、講師には東市来町在住で鶴丸地区公民館勤務の教育学部41年卒、室之園武洋氏に依頼し、「青少年教育に思う」という演題で実施することに決

日置地区では、平成21年3月4日(木)19時30分より、上市来中学校において、標記の事業を実施しました。

この事業を実施するに当たり、日置支部では本地区の諸団体が主催する会合の中で行うこととして、実施場所、時

う協議しました。その結果、標記の会合で総括として講演を行うことになり、講師には東市来町在住で鶴丸地区公民館勤務の教育学部41年卒、室之園武洋氏に依頼し、「青少年教育に思う」という演題で実施することに決

同窓会学年代表人数一覧

卒業学年	現人数(人)	補充人数(人以上)
S26	1	4
27	2	3
28	2	3
29	1	4
30	3	2
31	3	2
32	2	3
33	2	3
34	3	2
35	4	1
36	3	2
37	2	3
38	3	2
39	4	1
40	3	2
41	1	4

同窓会組織の拡充のために学年代表を5人以上にした。左記の学年代表一覧により、同窓生の皆さんのご協力をお願いします。

各学年代表者は、代表を選出、補充の上、同窓会本部にご連絡ください。

「三世会」とは、3つの世代、いわゆる昭和・平成、そして次の世代を意味し、次の新元号の世代までお互い元気で生き抜き、世のために貢献していこうという願いを込めて命名したものである。

鹿児島大学教育学部初等教育科昭和30年入学、同32年修了生・同34年卒業生をもって組織する会である。昭和34年の会を3(三)4(世)に置き換えて「三世会」とした。

「起承転結」で言えば、「転」の時期にきたのかも知れない。会則のない自由参加の同窓会に生まれ変わるのである。ある意味では「初心回帰」と言うべきかもしれない。

世阿弥は62歳の晩年に伝書「花鏡」を書き残した。その末

編集後記

天高くさわやかな日和になりました。ここに会報11号をお届けします。▼国政は政権交代で民主党の新しい政治が始まりました。これによりあらゆる活動も視点や角度を変えることが大切だと思われる▼今号では、同窓会の新しい事業「人材活用(講師派遣)事業」の活動を2つ報告し、「国際交流基金」関係では、学生3人の短期海外研修の感想文を掲載しました。▼各学年代表の活動などが寄せられてうれしい限りです。▼「三世会」からは「五十回誌」が寄せられました。古希を過ぎた方々の人生の回顧や新しい夢などには、深い思いがわいてきます。▼学内からは、今回も「教育実践総合センター」から准教授大久保直志先生の玉稿をいただきました▼年1回の会報で掲載内容、数が限定されるのが心苦しいところですが、お忙しい中、原稿などをお寄せくださいました皆さまに、お礼を申し上げます。▼同窓会に対するご意見や要望などご自由にお寄せください。